

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (中)・実験を行うときには「予想を立てる」「話し合いをする」「結果をまとめる」など一連の活動を行うなど、主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。
- (高)・実験を行うにあたり、結果を自分で予想したり、友達と比べたりしながら、根拠をもって考察することで主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。

(2) 課題

- (中)・実験結果を分かりやすく記録し、実験結果に基づいた考察を行い、学んだことを自分の生活に生かすために、ノートの活用、学習プロセスの意識化、理情的情報の提示を意図的計画的に行う。
- (高)・学習内容が理解できている児童はいるが、復習をしていない児童らは理解の定着につながっていない。授業の導入などで、関連する資料、動画を電子黒板などで表示し、児童に対する興味関心を高める。実験の記録ワークシートを利用し、主体的に実験と観察、記録が進んでいけるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率 (経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、基礎の部分では目標値に近づけているが、活用については、目標値から9ポイント下回っている。 ・「じしゃくのせいしつ」については、目標値から大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、基礎の部分では目標値に近づけているが、活用については、目標値から4ポイント下回っている。 ・「電気の通り道」に関しては目標値から8.4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、基礎・活用ともにわずかながら目標値を上回っている。 ・「光のせいしつ」に関しては6ポイント上回っている。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、目標値に対して、基礎で4.5ポイント、活用で0.3ポイント下回っている。 ・内容別正答率では、「1年間の動物のようす」「月と星」が10ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は目標値に対して、基礎で8.3ポイント、活用で0.7ポイント下回っている。 ・内容別正答率では「1年間の動物の成長」「物の体積と力」「水のすがた」が10ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、目標値から9ポイントほど下回っている。 ・内容別正答率では、「物のあたため方」については、目標値から16ポイント下回っている。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、目標値に対して、基礎で8.8ポイント、活用で5.7ポイント下回っている。 ・内容別正答率では、「人のたんじょう」が24.4ポイント、「ふりこのきまり」が18.7ポイント、「電流のはたらき」が10.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は目標値に対して、基礎で12.7ポイント、活用で15.6ポイント下回っている。 ・内容別正答率では「流れる水のはたらき」「ふりこのきまり」「物のとけ方」が特に低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は目標値に対して、基礎で8ポイント、活用で9ポイント下回っているが、昨年度と比較すると1ポイントとわずかだが目標値に近づいている。 ・観点別でも「主体的に学習に取り組む態度」では目標値を13ポイント下回ったが、昨年度からは2ポイント改善が見られる。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 知識を身に付けることは、概ねできているが、器具を使って調べることに関して、その過程や得られた結果を分かりやすく記録することが困難なことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題発見と解決の過程で、差異や共通点に目を向けて、問題を見出すことはできているが、根拠のある予想や仮説を立て、解決すべき問題を自ら見出したり、得られた結果を基に考察したりすることが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事物・現象に関して、すすんで他者と関わりながら問題解決を図る過程において、学んだことを次の学習や生活に生かそうとする意欲がもてないことがある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ノートなどを見ていると学習内容は間違いなく書けているが、なかなか知識として定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想・計画・実験・結果・考察と実験のたびに考えさせているが、まだ成果が数字となって表れていない。継続したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活と学習としての理科とが十分結びついているとは言えない。関連させた導入をさらに取り入れたい。

3 授業改善のポイント (観点別) 【◎は重点項目】

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 実験を少人数で行い、知識が定着するよう、一人一人が実験道具を使う時間を確保したり、知識技能を身に付けたりできるようにする。 実験は、日常生活と関連付け、実感を伴わせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて理科を学習する3年生には、学習の流れやノートの書き方を丁寧に指導する。 実験の方法を考えさせたり、結果の見通しをもたせたりすることで、科学的に考える力をつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校内や自分が住む地域内で容易に観察できる自然現象や生き物について、年間を通して継続的に目を向けようとする姿勢を身に付けさせる。そのために、教師が、日ごろから、理科学習に関連性のある近隣情報を紹介して、興味・関心をもたせる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象の性質や規則性などを把握する。 観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録できるようにする。 器具の操作の意味を捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを、記述で答えたり説明したりできるように、ノート指導やプレテスト等で学習内容の定着を確認していく。 観察、実験結果から、結果の見通し、予想を振り返ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎生活に根ざした学習内容や、体験的に学ぶ活動をしっかりと計画、準備し、興味や関心を喚起し学習内容の定着につなげる。 得られた観察・実験の結果を基に考察する活動、結論を導く活動を充実・工夫する。